

年頭のごあいさつ

名寄市長 加藤 剛士



あけまして  
おめでとうございます

多くの財産を磨いて素晴らしい「花」を咲かせるスタートの年にしよう。そんな気概で名寄市総合計画後期計画をスタートさせた昨年。観光振興計画や地域福祉計画などの「実践計画」も同時スタートし、10年先・20年先を見据えた力強い地域振興の土台作りが、市民の皆様のご理解とご協力をいただき、着実に一歩前進したものと思います。

昨年を振り返りますと、4月から杉並区に市職員を派遣、名寄市の観光マスケットキャラクター「なよろう」の誕生、「煮込みジンギスカン」の新たな可能性の発掘、市民のご協力をいただいた「ひまわり」プロジェクト、各種天文イベントでの「きたすばる」の全国発信、名寄市公式フェイスブックの10月開始、TVh放送の視聴が12月開始等々、名寄市を大きく売り込む、活性化のための新たな取り組みを数多く行いました。

安全・安心なまちづくりでは、75周年を迎えた名寄市立総合病院の消化器内科が4月に再開し、NICU(新生児集中治療室)の設置、拠点病院を結ぶ地域医療ネットワーク事業の整備が図られました。風連国保診療所も内科医の松本先生が着任し、体制が強化されました。

地域の長年の願いである、サンルダム建設計画の継続も大きなニュースでした。ゲリラ豪雨や渇水など、天候の振れ幅が非常に大きくなってきている昨今、安全安心施設としてのみならず、世界的な水不足の中、将来にわたる利水インフラは名寄市のみならず北海道の地域活性化に大きな役割を果たしていくと確信しています。

本年も大きな事業が動きます。駅前交流プラザ「よろいな」は4月オープンに向けて形が見え





できました。市民ホールも平成26年10月11日オープンに向けて、大きく動き出しています。現在の市民会館・商工会館・市民文化センターの3拠点を、JR名寄駅横と浅江島公園横の2拠点に集約し、駅横は経済観光交通拠点の新たな「顔」として、浅江島横は公園・既存の文化センターとの相乗効果を含めて文化芸術創造発信拠点として、生まれ変わります。

名寄市立総合病院では、精神科棟等の改築と屋上ドクターヘリポートの工事がスタートしました。日本最北の救命救急センターの指定を目指し、地域の高度・専門・救急医療の拠点となるようさらなる整備を進めてまいります。また、要援護者支援のための町内会と行政との協働や、名寄市地域見守りネットワークによる事業者との協働など、地域全体でのさらなる見守り体制も進めてまいります。これら全ての事業は、多くの先人の歴史が築きあげたすばらしい財産を活用して、さらに磨き上げていくことに他なりません。

最近、名寄市出身の方が大舞台で活躍しています。世界選手権で優勝し、昨年現役を引退した柔道の佐藤愛子さん。将棋のプロ棋士となった石田直裕さん、プロポーカー選手で日本人初の世界チャンピオンとなった木原直哉さん。皆様のご活躍は、我々名寄市民に大きな勇気と希望を与えてくれました。皆さんとお話をする、生まれ育った名寄を思い、故郷の為に何かしたい、名寄市をもっと有名にしたい、皆真剣に話っていました。本当に嬉しいことです。

家族や故郷に対する愛情。世のため人のために役に立ちたいという利他の心。今あることに對する感謝の心。そうした人の「心」が人に活力を与え、思いが繋がりがご縁となり、地域を動かす、明るく元気なまちづくりに発展していく。

沢山の大きなご縁の上に大きな仕事をさせていただいていることにあらためて感謝です。名寄市がさらに発展するために、新たな出会いを大切に、人と人との繋がりを、絆をさらに広げていくことを誓います。

今年一年が市民の皆様にとって輝かしい年となりますようご祈念申し上げます。